

令和3年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
名瀬地区	宮古崎	0	60%	ハナヤサイサンゴ属が優占。被覆状のニオウミドリイシやミドリイシ属小型群体もみられる。食痕・白化もなく、健全なサンゴ群集が保たれている。
	宮古崎東	0	30%	礁斜面下部のサンゴは壊滅状態だが、礁縁部に直径30～50cmの群体が散見できる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	デン浜	0	60%	礁斜面下部のサンゴは壊滅状態。浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。周辺では新規加入のサンゴは少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	知名瀬大浜	0	40%	礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、周辺海域と比較し、新規加入のミドリイシ属が多く、小型群体が散見できる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	大浜	0	20%	礁縁にはミドリイシ属が生存。白化の発生も無く、オニヒトデの食痕もみられなかった。新規加入のミドリイシは少なく、指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴ属群体がみられる。
	摺子崎	0	25%	礁斜面のサンゴはほぼ全滅。礁縁にハナヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属も多くみられる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	赤崎	0	50%	大規模な白化現象によりサンゴは壊滅。新規加入が少ないが、今年度は卓状および指状ミドリイシが散見。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	名瀬湾立神	0	55%	白化現象により卓状ミドリイシ群落壊滅。2010年から小型群体もまばらにみられるようになっている。指状ミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	山羊島	0	30%	ハマサンゴ属が優占。塊状ハマサンゴ群体が点在し、枝状のユビエダハマサンゴ群落が広がるが、破損部分も多い。ミドリイシ属は極僅か。透視度は10m程度でシルトが堆積している。白化群体はみられなかった。
	キョンナ	0	40%	白化現象で壊滅後、被度10%まで回復したが、オニヒトデにより再び壊滅した。サンゴは急速に回復がみられ、卓状および指状ミドリイシ属群体が散見できる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	有良	0	15%	2006年に被度15%だったが、大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。指状ミドリイシが多い。サンゴの新規加入が少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	芦花部	0	15%	2007年に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴが少数みられる程度で、新規加入のサンゴは少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	摺子崎礁池	0	5%未満	塊状のハナガササンゴの小群落や、塊状ハマサンゴが点在する。ショウガサンゴの小型群体が散見できた。ショウガサンゴやハマサンゴに部分白化がみられた。
	摺子崎礁原	0	5%	卓状ミドリイシ属が優占。大量発生したオニヒトデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。卓状ミドリイシも散見できるが、最近死滅したとおもわれる群体もみられた。被覆状コモンサンゴ類に白化がみられた。
	大浜礁池	0	5%未満	昨年度、礁池内で特に被度の高い地点に調査地点を変更した。白化により全体の8割が死滅した。その後も死滅は続いた。被度は2017年80%から2018年度5%未満に大幅に減少した。
	大浜礁原	0	30%	オニヒトデ食害により礁斜面のサンゴはほぼ全滅したが、駆除等により礁原では卓状および指状ミドリイシ属が優占。大浜礁池では白化により9割以上のサンゴ群体が死滅したが、礁原では死滅群体は小数であった。
	崎原東	0	80%	卓状のクシハダミドリイシが優占。離礁上部は大型のクシハダミドリイシ群体に覆われている。樹枝状のヤスリミドリイシ大型群体も少数みられる。白化や食痕もほとんどみられない。台風による破損もみられなかった。
	崎原南	0	30%	サンゴ食巻貝による食痕がみられる。オニヒトデの食害を受けた樹枝状ミドリイシ群落の回復が進んでいたが、2010年の奄美豪雨災害、2011年の奄美大島南部豪雨による泥土の堆積があり、被度は減少した。樹枝状のミドリイシ属と塊状ハマサンゴが優占する。
	仲干瀬崎(小湊南)	0	80%	礁縁にはハナヤサイサンゴ群集が一面に広がり、礁斜面上部ではウスエダミドリイシやスゲミドリイシ等のコリンボース状のミドリイシ属小型群体も増加している。潮通しも良く順調に回復してきている。白化群体やオニヒトデ食痕、台風による破損もみられなかった。

令和3年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況	
会	住用地区	高浜東	0	60%	白化なし。礁縁上部に卓状ミドリイシ属の大型群体が広がる。直径2m以上のクシハダミドリイシや直径1m以上のコユビミドリイシの大型群体がみられる。透視度10m以下。
		高浜	0	60%	白化なし。礁縁部に直径40～60cmの指状および卓状ミドリイシ群体が広がる。透視度15m程度。サンゴ群集は概ね健全な状態。卓状および指状ミドリイシ属群体の成長に伴い、被度は昨年度同様に60%。
		鳩ノ崎	0	10%	白化なし。礁原上にはハマサンゴ、キクメイシ類、ショウガサンゴの小型群体が点在し、海底に大型ハマサンゴ群体が点在する。新規加入のサンゴは少ない。被度は昨年度同様で10%程度。
		スタートピラ	0	40%	白化なし。湾奥小滝からスタートピラに続く小規模なサンゴ礁。礁縁にコユビミドリイシやクシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシの群体がみられる。白化群体はみられず、サンゴ群体は健全な状態。
		トピラ	0	10%	今年度は白化の発生はなく、トピラ島側のサンゴ群集周辺の海底には泥土の堆積はみられなかった。被度は昨年度同様10%程度であった。新規加入のサンゴは少ない状態が続いている。
		和瀬	0	20%	2016年は大型の塊状ハマサンゴも白化し部分死滅した。2017年はハナヤサイサンゴ類や樹枝状ミドリイシ群落の白化。2020年8月に樹枝状ミドリイシ群体が部分白化したのがその後回復した。今年度は白化や台風による破損もなく、被度は昨年同様20%。
	笠利地区	赤木名	1	20%	白化なし。昨年はミドリイシ類やコモンサンゴ類が白化。赤木名港地先の塊状ハマサンゴ群落。ハマサンゴが優先し、群種全体の9割以上を占める。その他はキクメイシ属やハナガササンゴ属の群体が点在。ウスエダミドリイシ小型群体が少数みられる。
		前肥田	0	30%	白化なし。ユビエダハマサンゴ群落が2016年の部分白化により死滅した。今年度は白化はない。
		赤木名立神	0	50%	白化なし。昨年はハナヤサイサンゴ群体は殆どが白化、ミドリイシ類も色が薄い軽度の白化群体が多く見られたが、死滅はごく少数であったと思われる。1998年にサンゴの白化現象によってサンゴは壊滅したが、2009年から小型群体が散見できるようになった。
		蒲生崎入口	0	10%	白化なし。オオウミキノコやバラウネタケ等、ウミトサカ科のソフトコーラル類が優占。直径10～20cmのミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体も散見できる。種の多様性は高い。
		蒲生崎	0	30%	白化なし。蒲生崎周辺でサンゴの小型群体が多い海域。直径20～30cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見できる。オヤユビミドリイシやコユビミドリイシ、ハナヤサイサンゴが多い。台風による破損等で被度は昨年同様20%から30%に増加。
		佐仁	0	60%	白化なし。笠利半島西海岸においてサンゴの回復が特に順調な海域。直径50～60cmに成長した指状ミドリイシ属群体もみられる。波当たりが強く、被覆状のオオウミドリイシも多い。礁斜面では樹枝状のアオサンゴ小群落が点在している。白化群体やオニヒトデ食痕
		用海岸	0	60%	卓状および枝状のミドリイシ属の小型群体が多くみられる。南側の縁脚には卓状のクシハダミドリイシ、ウスエダミドリイシ群体、北側の縁脚には樹枝状のアオサンゴ小群落が点在。種多様性も高い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
		あやまる岬	0	50%	白化なし。礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形で、礁縁に卓状ミドリイシがみられる。直径40～60cmほどのクシハダミドリイシやコユビミドリイシが多い。太枝状のヤスリミドリイシもみられる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
		明神崎	0	70%	白化なし。波当たりが強い礁縁にハナヤサイサンゴ科の群落が広がる。スゲミドリイシ、コユビミドリイシなどの小型群体も散見できる。水路部には直径1mほどの卓状ミドリイシ類もみられる。白化群体、オニヒトデ食痕も無く、サンゴ群集は健全な状態。
		用安	0	10%	直径2白化なし。水路北側の礁縁。直径20cmほどの指状ミドリイシ類の小型群体が多い。直径1mほどのクシハダミドリイシもみられる。新規加入のミドリイシ属のサンゴはやや少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
		節田	0	50%	白化なし。礁縁から礁斜面にかけて、クシハダミドリイシ、コユビミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落が広がる。大型群体もみられる。新規加入のミドリイシ類も多い。白化により樹枝状ミドリイシ群体の上部に部分死滅が見られ被度は減少したがその後回復がみられた。
		神の子	0	75%	白化なし。礁池内に広がる枝状のトゲエダコモンサンゴや葉状のチヂミウスコモンサンゴ群落。2019年は群落の80%が色が薄くなる軽度の白化が見られたが、白化による死滅は確認できなかった。

令和3年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
協議会 大和村	今里沖	0	15%	オニヒトデの大量発生によりサンゴは壊滅状態で、大型の卓状ミドリイシ属の骨格が残る。ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる程度で、顕著なサンゴの回復はみられない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	今里小浜	0	25%	コユビミドリイシ等のミドリイシ属小型群体が成長してきている。卓状ミドリイシ小型群体も少数みられる。サンゴ岩表面は付着藻類に覆われ、サンゴの新規加入は少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	志戸勘コモリ	0	20%	浅所のヤツデアアナサンゴモドキがほぼ全て白化、深所のミドリイシ群落も2割が白化したが共に死滅はなかった。フトエダミドリイシやMontipora mactanensisなど、周辺海域にあまりみられない種も生存する。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	志戸勘礁池	0	10%	コモリから陸側に広がる礁池では、樹枝状ミドリイシの小型群体も多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。直径30cm程度のウスエダミドリイシ等もみられる。2017年、2018年の白化により被度は減少した。
	名音沖	0	70%	直径20～60cm程度のミドリイシ属の卓状群体が散見できる。卓状のクシハダミドリイシが優占し、コユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等のコリンボース状の群体も多い。被度は昨年度同様70%。国直海域、毛陣海域と併せてオニヒトデ駆除海域(保全海域)に選定すべきである。
	名音隧道	0	60%	オニヒトデ大量発生によりサンゴは壊滅し、その後、死滅サンゴ骨格上にミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる。新規加入は名音海域より少ない。ナンヨウミドリイシやコユビミドリイシ、オヤユビミドリイシが多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	ヒエン浜中央	0	10%	クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ、オヤユビミドリイシ等のミドリイシ属の直径1m程度の大型群体が少数みられるが、新規加入のミドリイシは少ない。オニヒトデ大量発生したが、集中的な駆除により全滅は免れている。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	ヒエン浜戸円側	0	20%	クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ等のミドリイシ属の大型群体が少数みられる。ミドリイシ属の小型群体も散見できるが、加入数は少ない。2005～2006年のオニヒトデ大量発生したが、集中的な駆除により全滅は免れている。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	ヒエン浜礁地	0	5%未満	礁縁では、半球状のリユウキュウノウサンゴが散見できる。指状ミドリイシ属の小型群体が少数みられるが、礁池では塊状ハマサンゴが少数みられる程度で、サンゴの加入がほとんどない状態。
	大山崎西浜	0	15%	直径10～20cm程度の指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴの小型群体がみられる。卓状ミドリイシの小型群体やキクメイシ科の小型群体もみられる。白化やオニヒトデ食痕もみられなかった。新規加入は少ない。
	トルス	0	20%	直径10～30cmのコユビミドリイシやクシハダミドリイシ等のミドリイシ属群体が優占する。ハナヤサイサンゴも散見。サンゴ加入数は少ない。
	マッコ	0	30%	直径10～20cm程度のコユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属小型群体が散見できる。潮通しもよくサンゴ群体は概ね健全な状態で、白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	石川	0	20%	ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。新規加入は少ない状態が続いている。死滅した大型卓状ミドリイシ群落の骨格が残る。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	親川	0	40%	直径20～50cm程度の指状および卓状ミドリイシ属の群体や、ハナヤサイサンゴが見られる。礁原にはリユウキュウノウサンゴ群落が広がる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	宮古崎	0	60%	直径20～50cm程度の指状および卓状のミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。卓状ミドリイシの成長により、被度には昨年度同様60%。
	国直北	0	85%	国直集落北側の砂浜前面に広がるサンゴ礁。1998年のサンゴの白化現象によりサンゴは壊滅し、サンゴが回復しない状態が続いていたが、2010年度から小型群体が多くみられるようになった。
	国直	0	80%	国直集落前面に広がるサンゴ礁。1998年のサンゴの白化現象によりサンゴは壊滅し、サンゴが回復しない状態が続いていたが、2010年度からミドリイシ属の小型群体が散見できるようになった。
毛陣礁池	0	60%	急激に落ち込む礁斜面の被度は40%。礁池内は、直径60～100cmのクシハダミドリイシやコユビミドリイシ等の卓状ミドリイシ類が優占する。一部にサンゴの病気ホワイトシンドローム発症群体がみられた。	
親川南	0	70%	2010年の奄美豪雨災害により調査地点「親川」から約500m南東で大規模な崩落があり、土砂の流出や海底への泥土の堆積がみられ、崩落現場から100m以内では約半数のサンゴ群体に白化や死滅がみられた。その後サンゴは回復が進んでいる。	

令和3年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
宇検村	曾津高崎東	0	70%	白化はみられなかったが、部分死滅がみられ被度は昨年度から減少。
	外浜	0	70%	白化やオニヒトデ食痕はみられなかったが、部分死滅がみられ被度は昨年度から減少。
	屋鈍崎	0	70%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。白化やオニヒトデ食痕はみられなかったが、部分死滅がみられ被度は昨年度から減少。
	屋鈍	0	50%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。白化やオニヒトデ食痕はみられなかったが、部分死滅がみられ被度は昨年度から減少。
	タエン崎	0	70%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。白化やオニヒトデ食痕はみられなかったが、被度は昨年度から減少。
	タエン	0	80%	クシハダミドリイシ等の大型ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシの小群落もみられる。被度は増加。
	枝手久島北	0	60%	白化やオニヒトデ食痕はみられず、新規加入のミドリイシ属のサンゴもみられ、健全なサンゴ群集が広がっている。被度は部分死滅により減少。
	倉木崎	0	50%	白化やオニヒトデ食痕はみられず、被度は増加。
龍郷町	船越海岸	0	80%	白化やオニヒトデ食痕はみられず、新規加入のミドリイシ属のサンゴも多く、健全なサンゴ群集が広がっている。
	嘉渡	0	10%	コエビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体のみみられる。ハフオハマサンゴ等のソフトコーラルが優占する。オニヒトデ食痕や白化群体無し。
	円	0	10%	コエビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体のみみられる全体的にソフトコーラルが優占する。オニヒトデ食痕や白化群体無し。
	今井崎	0	30%	ソフトコーラル、ハードコーラルともに変化無く健全な状態。波当たりが強くコエビミドリイシ等もみられる。オニヒトデ食痕や白化群体無し。
	ハナゴイ	0	40%	ハフオハマサンゴ、ユビエダハマサンゴ、コブハマサンゴ群落が連なる。ミドリイシ群体は少ない。オニヒトデの食害無し、白化群体無し。
	赤尾木	0	30%	砂地にハマサンゴが多く点在。ミドリイシ属群体も昨年度と変化なし。オニヒトデの食害無し。白化群体無し。
	白浦	0	25%	コブハマサンゴは健在。樹枝状ミドリイシ属群体が多少増加。オニヒトデ食痕や白化群体無し。
	戸ロアーチ	0	25%	ミドリイシ属群体は少ない。ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。オニヒトデ食痕や白化群体無し。
	戸ロアウン	0	25%	ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。指状のミドリイシ属小型群体がまばらにみられる。オニヒトデ食痕や白化群体無し。
	ウマズバマ	0	25%	オオウミキノコやバラウネタ等のソフトコーラルが優占。半球状サザナミサンゴ科群体や被覆状コモンサンゴ属群体がみられる。
	戸口落水	0	25%	卓状のクシハダミドリイシ大型群体も少数みられる。直径30cm程度の指状ミドリイシ属が多い。オニヒトデ食痕や白化群体無し。
	久場	0	25%	水深3mのユビエダハマサンゴは死滅状態。水深5mからユビエダハマサンゴが少し目立つ。水深10mを越えるとリュウモンサンゴ群落、エダセンベイサンゴ群落が広がる。
倉崎	1	20%	塊状ハマサンゴ優占。直径60cm程度の卓状ミドリイシ群体も増加傾向だが死滅個体も見られる。レイシ貝の食害と推測。	

令和3年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
瀬戸内町	安脚場	-	65%	前年度と比べると、被度が増加した。
	黒崎	-	25%	前年度と比べると、被度の変化はなかった。
	実久	-	65%	前年度と比べると、被度が増加した。
	デリキョンマ岬	-	25%	昨年まで生きていたサンゴが少なくなった。
喜界町	花良治	0	55%以上～60%未満	オニヒトデの食痕は見られない。卓上ミドリイシ類が多い。水深5mにサルバが多い。白化現象はなし。
	塩道	0	60%以上	オニヒトデの食痕は見られない。卓上ミドリイシ類が多い。水深5mにサルバが多い。白化現象はなし。
	荒木	0	60%以上	オニヒトデの食痕は見られない。アオサンゴが見られる。白化現象はなし。
徳之島町	畦	2	70%	多少の食痕あり。生育良好。
	母間	2	70%	多少の食痕あり。生育良好。
	畦	3	70%	多少の食痕あり。食害、白化前のサンゴあり。
	母間	3	70%	多少の食痕あり。生育良好。
	畦	2	70%	多少の食痕あり。生育良好。
	母間	2	70%	白化死あり。生育良好。
	畦	1	70%	多少白化あり。生育良好。
	母間	1	70%	弱白化あり。生育良好。
	畦	1	70%	死滅サンゴあり。生育良好。
	母間	1	70%	食痕、弱白化あり。生育良好。
	畦	0	70%	弱白化あり。生育良好。
天城町	与名間漁港西沖	0	30%	食痕はないが白化が点在する箇所あり
	与名間灯台下	0	20%	赤土の影響か、珊瑚はかなり少ない状態
	与名間ビーチ沖	0	30%	食痕はなく白化も少なく健全な状態
	千間南沖	0	40%	この場所が現在一番健全な状態である
伊仙町	喜念	2	50%～74%	多少白化現象あり、生育良好。
	喜念(コバンシャ)	1	50%～74%	多少白化現象あり、シコロサンゴ等生育良好。
	面縄	1	50%～74%	ハマサンゴ等、発育良好。
	検福	2	50%～74%	食害・白化現象が多少あったが、ウスコモンサンゴ等発育良好。
和泊町	西原	0	20%	オニヒトデの確認無し。サンゴの状態は良好。
	出花	0	20%	オニヒトデの確認無し。サンゴの状態は良好。
	ワンジョ	0	20%	オニヒトデの確認無し。
	イダシチ	0	20%	本調査時には食痕はみられなかった。
知名町	沖泊り沖	0	25%以上50%未満	レイシ貝による被害が一部見られる。
	屋子母	0	0～24%	白化や食害によるサンゴの減少がみられるが、新しく育っているサンゴもある。
	ウジジ浜沖	0	0～24%	白化現象は少ない。
片論町	長崎沖(長崎の塔)	0	28.8	やや不良
	赤崎沖(礁斜面)	0	21.0	不良
	赤崎沖(礁池内)	0	14.0	不良

令和3年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
子舘町	皆田沖(礁池内)	0	11.3	不良
	茶花沖(ニュードロップ)	0	55.0	良
	茶花沖(宮殿東)	0	66.3	良